人びとの近代史

～旧役場文書が語る国と地域～

国民皆学　寺子屋から学校へ

大正12年（1923）開明尋常高等小学校
（一宮市尾西歴史民俗資料館蔵）

徴兵　村から戦場へ

昭和19年（1944）起町にて撮影
（一宮市尾西歴史民俗資料館蔵）

葉栗郡更屋敷村戸長役場文書

2026.10.17（土）～11.23（月・祝）

【開館時間】午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休 館 日】毎週月曜日（11月23日は開館）、11月4日（水）

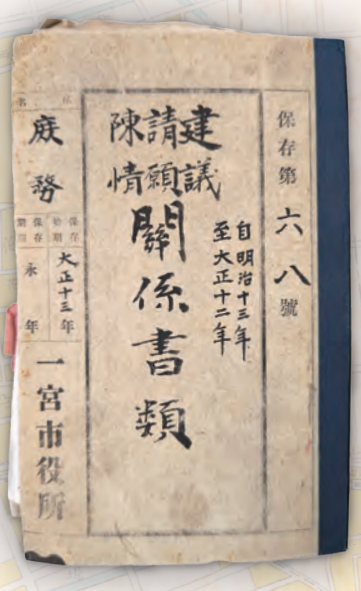
【観 覧 料】一般300円（240円）、高校・大学生150円（120円）、中学生以下無料
（常設展を含む）◎（　）内は20人以上の団体。
◎ 一宮市内在住の満65歳以上で、住所・年齢の確認できる公的機関発行の証明書等を提示された方は無料。
◎ 身体障害者手帳・戦傷病者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳（ミライロID可）を持参の方（付添人1人を含む）は無料。

一宮市博物館
ICHINOMIYA CITY MUSEUM

人びとの近代史

～旧役場文書が語る国と地域～

一般的に日本史での近代とは、開国から太平洋戦争による
敗戦までの激動の時期を指します。
徳川幕府から明治新政府へと政権が転換した明治維新は
日本史の大転換期でした。
徳川の幕藩制国家から国家の枠組みが再編成され、
戸籍や台帳による管理で人びとは「国民」として、
中央集権的な国家システムに組み込まれました。
明治時代は、税金や学校の制度など、
現在の私たちの生活に関わる諸制度が構築された時期です。
国際化と近代化の波の中で、人びとの生活は変化しました。
そのような近代の社会で、人びとはどう生き、何に苦しんだのか、
一宮市の旧町村に残された戸長役場文書や旧町村役場文書を中心に紐解きます。



展示説明会　**10月17日(土)・11月7日(土)**

いずれも午後1時30分より1時間程度
参加費無料（ただし観覧料が必要）申込不要

講 演 会　**11月3日(火・祝)　午後1時30分より**

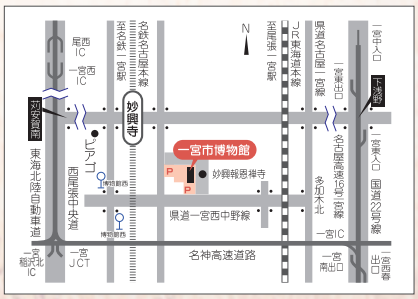
富田 三紗子氏（大磯町郷土資料館学芸員・日本アーカイブズ学会会員）
旧町村役場文書の保存と活用
●参加費500円（観覧料は含まない）
●定員60名　当日、正午より整理券配布

一宮市博物館
ICHINOMIYA CITY MUSEUM

〒491-0922　一宮市大和町妙興寺2390
TEL. 0586-46-3215　https://www.icm-jp.com

- 名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車、南口より徒歩約7分
- JR東海道本線「尾張一宮」駅下車、タクシーで約10分
- ニコニコふれあいバス「博物館西」下車、徒歩約5分

公式サイト



ichinomiya_city_museum　@138citymuseum　ichinomiya.city.museum　@138museum